

「DANDANYARAI」(青木 遥さん)

DANDANYARAI (だんだん矢来)

—高さが変わる・色が変わる・機能が変わる・街が変わる—

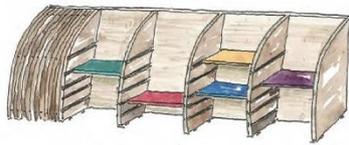
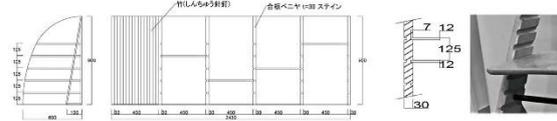
路地はモザイク模様

朝、決まった時間に建てて出ていく女子高生。
水曜きのおばあさんと立ち話をするクリーニング屋さん。
新聞や牛乳は、もう配達済みだ。
昨日、大騒ぎしていた外国の旗人はまだ出てこない。
そろそろ、隣のほくらちゃんが、三輪車を持ち出して来るかな？

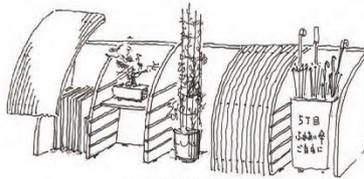
路地の一日は、人生絵巻。
来る人あり、通り過ぎる人あり、話し込んでいつまでもいる人あり。
「まあ、そう急がずに、一休みしてあげば、...」
思い思い、自分に合った置き板を、はめ込んで座っていると
子供達が寄ってくるかもね。

だんだん矢来の機能

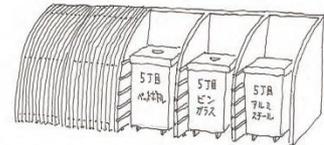
- ・左サイドの矢来の中に、座板やゴミ箱等を収納しておく。
- ・天気の良い日は、カラフルな座板を設置して、路地のおもてなしをする。
- ・時には、ディスプレイ棚として、食器や植木鉢を置く。
- ・急な雨の日には、「おもてなし傘」を出して路地サービス
- ・ゴミ収集の時には、ゴミ置き場に早変わり



友達に来て欲しい時は
「カラフルな welcome 座板」



雨が降りそうな時
又は
自分の趣味を自慢したい時



分別収集の時

「Extension Furniture」(井上 湖奈美さん)

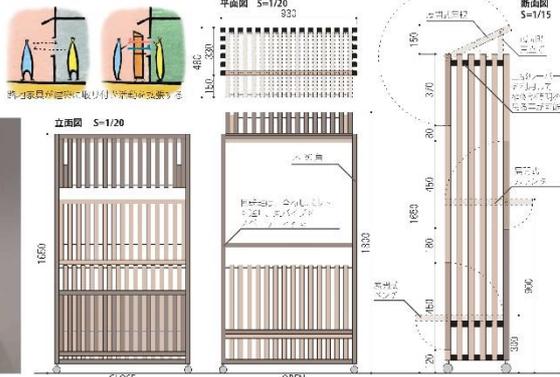
約束と並ぶ幼馴染、いつの間にかが置かれた、小椅子や壺、狭い路地を少くともくせんの原則と慣習を感じる。身元的なスタイルを境とした共有空間には、そこに暮らす人々の個性や気持が少しずつ積み出ていく。それによって人々を繋ぎつなぐ上での路地空間の魅力の一つだ。路地を形成する建築に下屋のように取り付き、人々のアクティビティを拡張させる家具を考えたい。狭い路地空間に合わせ、家具は展開式とした。未使用時は奥行300mm程度で軒下に設置でき、出格丁のような佇まいで風景に馴染む。展開する事で路地を楽しむためのアクティビティを可能にする。



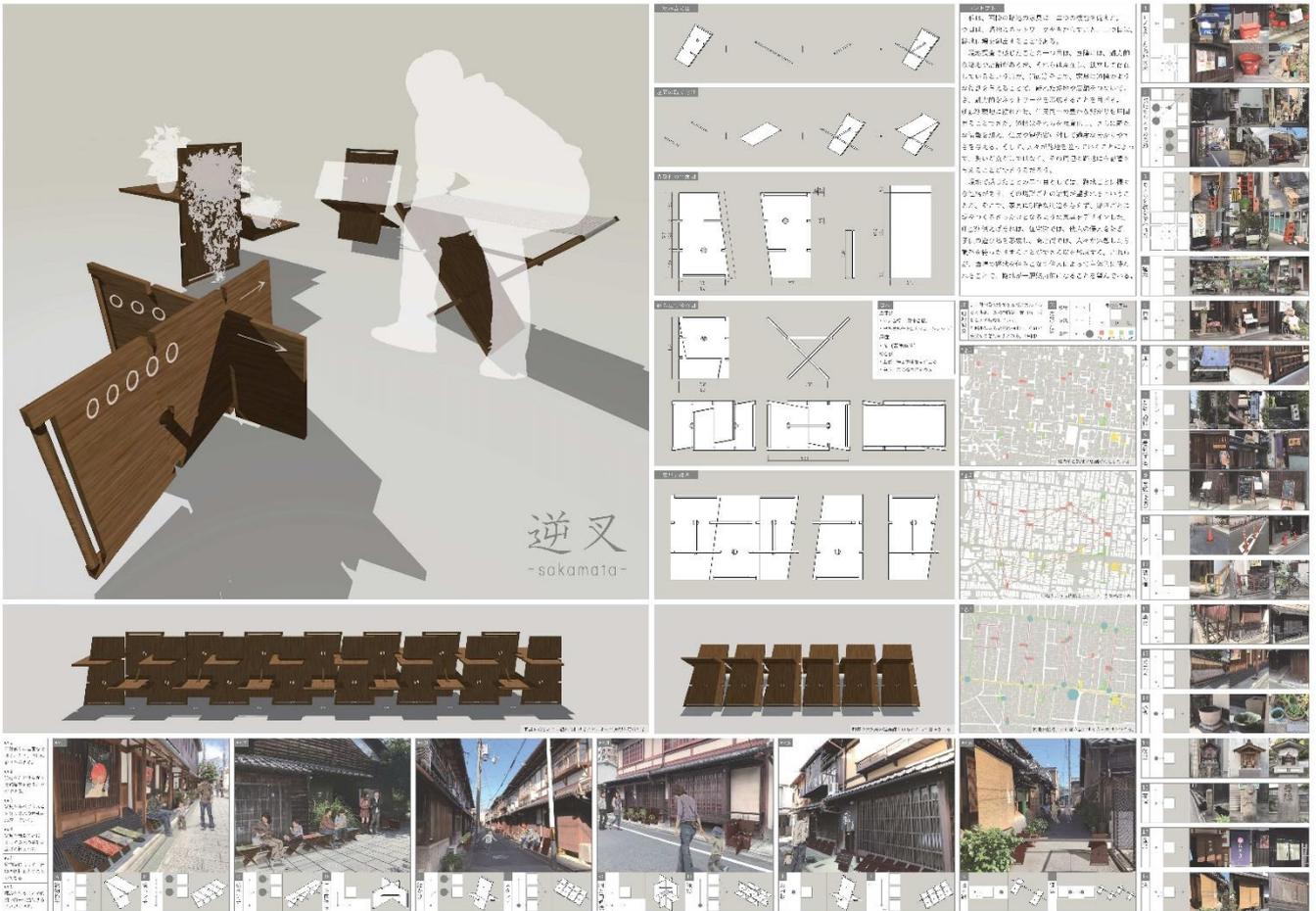
Extension Furniture

—路地のための増築家具

増築するように建築に付属させる事で、住人と路地を訪れる人々を繋ぎ、新たな交流を促進するような路地の家具を提案する。かつての共同戸のように路地と暮らしを繋ぎ現代のコミュニティを生き生きとさせる。



「逆叉」(上田 春彦さん)



「路地の置縁」(久保井 聡さん)

